

平成29年度第1回生物多様性保全検討部会

【 摘 録 】

日 時：平成29年12月18日 14:00～16:00

場 所：京都市文化市民局消費生活総合センター研修室

出席者

委 員：①菊池玲奈委員，②喜馬爽委員，③畠佐代子委員，④原口真委員，⑤久山喜久雄委員，
⑥湯本貴和委員

議 題：京都市生物多様性プランに基づくリーディング事業の取組状況等について
京都市生物多様性プランに係る庁内連絡会議の実施結果について
今後の取組について

- 議 事
- 1 開会
 - 2 議事 以下のとおり
 - 3 閉会

－ 摘 録 －

事 務 局 現在，6名の出席を頂いている。「生物多様性保全検討部会設置要綱」第5条第2項に基づき，総数9名の過半数を超えており，本部会が成立していることを報告する。

事 務 局 改選後，初めての部会となるため，委員の皆様を紹介させていただく。

< 委員の紹介・挨拶 >

事 務 局 部会長職務代理者については，「生物多様性保全検討部会設置要綱」第4条第3項の規定により，部会長に指名していただくこととなっているがいかがか。

湯本部会長 板倉委員にお願いしたい。

事 務 局 板倉委員は本日御欠席だが，事前に承諾をいただいているので，部会長職務代理者については板倉委員にお願いすることとする。

事 務 局 以降の議事進行は，湯本部会長にお願いしたい。

湯本部会長 それでは，議題1「京都市生物多様性プランに基づくリーディング事業の取組状況等について」，事務局から報告をお願いする。

事 務 局 平成28年度以降に実施したリーディング事業を中心に，資料3に基づき報告する。

< 資料3について説明 >

湯本部会長 ただ今の報告について，御意見等をいただきたい。

畠 委 員 桂川でオギ原の保全活動や生きものの観察会を開催しており，その情報をポータルサイトに掲載してもらったが，実際にそれを見て来た人はほとんどなかった。CSR活動を行っている企業に対して掲載されているイベント情報を発信するなどもう一歩踏み込んだ周知を行ってほしい。

- 湯本部長 SNS を活用して、活動を広げてくことが簡単で良い方法ではないか。
情報のスムーズな伝達ができているように感じるが事務局はどう思っているか。
- 事務局 行政が発信する情報については、情報量が多過ぎて見落とされてしまうこともあり、当課でも課題であると感じており、同様に他部署でも苦戦していると聞いている。
また、京都市生物多様性保全活動登録制度の登録数についても、現在微増という状況であり、対策を検討していきたい。
- 湯本部長 登録制度については、登録することのメリットについてうまく示せていないのではないかな。
- 原口委員 今まで認知していない人にどう伝えていくかを検討するため、ブレインストーミングの場を作る必要があるのではないかな。世代によって、利用している SNS は異なるため、様々な意見を集めるべきである。
現在、環境に配慮した企業に投資を行う ESG 投資が広がっており、その中で企業は SDGs を指標にして CSR に取り組んでいる。京都市の生物多様性保全活動に参加することが企業の SDGs 活動であるということをアピールできれば、京都市の取組に参加するメリットになる。2020 年に愛知目標が終わり、生物多様性の次の目標は SDGs に絡めたものになると考えられるので、京都市が SDGs と絡めた生物多様性保全に取り組んでいることを世界に発信することで、企業へのアピールにもなり、企業が参加するメリットが生まれてくるのではないかな。
生息域外保全については、本来は元の生息地の復元にもう少し早く取り組むべきであったと思うが、京都市として予算がないのであれば、企業からスポンサーを集めることをしても良いのではないかな。
- 湯本部長 環境管理課だけでできることは限られているため、いかに他の力を借りるかが大切になってくる。その中で、京の生きもの・文化協働再生プロジェクトの認定団体も自分たちの取組をアピールしたいと思っているはずなので、団体等から若い人たちを集め、柔軟なアイデアをもらってはどうか。
- 喜馬委員 若者の中ではフェイスブックは公式なイメージがあり、就職活動で活用している人が多いが、インスタグラムやツイッターを活用すれば、難しい言葉も比較的広げやすいのではないかな。
例えば、インスタグラムに生きもの写真を生物多様性という言葉と一緒に投稿してもらうことで、興味のある人を増やしていくことができるのではないかな。
- 湯本部長 インスタ映えするイベントを検討してはどうか。
- 久山委員 「京都の社寺と生物多様性」については非常に評判が良いことから、地道ではあるが、紙ベースでの啓発は続けていくべきである。その他の冊子についても更に活用できるので、少数ずつでもより多くの場所に配架するなど広く配布する努力が必要である。
また、実績のある取組の情報を NPO 等の団体に共有し、一緒に取り組むことができるような仕組みを作してほしい。
京都市動物園のみならず、京都市青少年科学センターや京エコロジーセンターも巻き込んだ市民向けのイベントを開催してはどうか。
- 湯本部長 「京都の社寺と生物多様性」はホームページ上に掲載されているのか。
- 事務局 ホームページ上に掲載している。
- 菊池委員 「なぜ」、「何のために」という部分への共感がないと人に動いてもらえない。保全・育成した植物をどうするのか、なぜ保全しなくてはいけないのかという部分の深堀ができなければ、結局は希少種を鉢植えで育てていけば良いということで終わってしまう恐れがある。なぜ今その植物が危機的な状況にあるのかというのは、豊かさや利便性を求め、

様々なことを積み重ねた結果であり、その結果を未来に向けてどう引き継いでいくのかという、過去と未来の両方について考える必要がある。

過去に、北海道において、大学の立場で外来種のハチの対策を市民と協働で行った際、大学の研究室では外来種のハチが増えることの影響や捕獲方法、調べてほしい花の種類だけを伝えていた。しかし、市民に動いてもらうためには、「私たちの子どもや孫が、将来この花をずっと見続けるためには、今このハチがいることが大変な問題だ。」と分かりやすく伝えることが大切である。

以上のように、このままであれば、市民、特に子どもたちには減った植物を守れば良いという短絡化が生まれてしまうのではないかと懸念する。

晶 委 員 部会委員の専門分野はそれぞれ異なっており、部会の場合以外でも相談してほしい。保全に取り組んでいくためには、地域を取り込む仕組みづくりが必要である。自然保護団体やNPO等に聞き取りをするなどつながりを強くしていくべきではないか。

「未来へつなごう！京都の生物多様性」はどこに配布しているのか。

事 務 局 区役所や図書館、各種イベント等で配布している。

晶 委 員 本冊子を中学校の教材として活用できないか検討してみてもどうか。

先日、小学校の先生からカヤネズミの取組について講義をしてほしいと依頼があったということもあり、そういった場合にも活用できるのではないか。

事 務 局 発行部数の関係もあり、全ての中学校に配布するのは難しい。

湯本部会長 ホームページ上では広く見てもらうことができるのではないか。また、中学校の理科の教員に周知するなどの方法もあるのではないか。

晶 委 員 冊子を小中学校の先生の環境教育の指針として活用してもらおうと良いのではないか。

事 務 局 データ版も活用しながら、学校でも活用してもらえよう検討する。

久 山 委 員 京エコロジーセンターで作成している環境副読本に環境管理課で発行している冊子やポータルサイトの紹介を掲載してもらっても良いのではないか。

原 口 委 員 どのチャンネルにどのようにアプローチしていくかを年次計画で細かくスケジュールを作る必要がある。何月までにどういった方法で先生に冊子を配布するのか具体的に検討しないと先程の議論が無駄になってしまう。

現役世代に本質的なことを伝えていくのは困難なことも多いため、2030年に現役世代となる子どもたちに2030年がどういう京都市であってほしいかを検討してもらうことが大切である。これにより、自然とその親たちも巻き込むことができる。子どもたちに啓発を行うにはスマホ、タブレットを活用することが有効である。

湯本部会長 続いて、議題2「京都市生物多様性プランに係る庁内連絡会議の実施結果について」、事務局から報告をお願いします。

< 資料4について説明 >

湯本部会長 ただ今の報告について、御意見等をいただきたい。

湯本部会長 実務を行っている関係部署を集めて庁内連絡会議が開催されたことはプランを推進するうえで重要な一歩である。

菊 池 委 員 庁内連絡会議の目的、位置付けはどのようなものか。

事 務 局 主な目的は、プランに関係する事業についての情報共有と次期プランに向けての意見交換である。

- 菊池委員 本来は、生物多様性保全とは意見が対立する部署をどのように変えていくかが大切である。今すぐには難しいかもしれないが、この部分はこのように変えてほしいや、この部分は矛盾しているのでこうしてほしいなど、建設的な議論の場、行政施策を変えていく場としてほしい。
- 湯本部会長 全ての事業を個々にレビューしていくのは方法の一つではあると思うが、必ずしも建設的な方法かはわからない。どのようにすればシステムとして構築できるか。
- 菊池委員 なぜ、何のために保全を行うのか、未来の京都市をどうしていきたいか、ということを市民の方が考える際、その価値観の中に生物多様性という考え方が溶け込んでこないと関連事業の全てを個々にレビューしても、行政施策も今大事だと思われることに流されてしまう。
市民の方の環境に対する価値観の中で生物多様性が重視されれば、行政の施策も推進しやすくなると思う。現在 SDGs という言葉が注目されており、京都市の方向性を示しやすい状況にあるので、2030 年にむけて京都市がどのようにしていくかを、一見生物多様性とは関係のないと思われる部局の人も含めて考えてみてほしい。
- 原口委員 次期プランの目標年度である 2030 年に向けて、各関連事業の底上げは大切である。
- 畠委員 多様な取組が多様な部署で行われている中で、実際に生物多様性を保全する上で重要な取組はどのくらいあるだろうかと思う。
- 久山委員 多様な関連事業の中でも関わりの軽重があると思う。重たい関わりがある部署がどこかを見据えて、その部署との関係を構築していくことが大切である。また、南部クリーンセンター第二工場立替え整備事業についても全小学生がこの場所を訪れることになるかと思うが、関係性を保ちながら本市生物多様性をアピールしていく必要があるのではないか。
- 湯本部会長 当面の目標は、各部署で行っている事業に少しは生物多様性について考慮してほしいということを伝えていくことであると思う。
環境副読本についての話もあったが、2030 年の京都市をどうしていきたいかということ子どもたちと考えていく必要があると思う。
- 喜馬委員 京都市は部署数も非常に多いと思うが、他部署と連携し、自分事として取り組んでもらうことが大切ではないか。
- 事務局 庁内連絡会議については、特に関わりが深いと思われる部署に出席してもらった。自分の部署の事業が生物多様性保全に関係していると改めて認識してもらうことができたため、開催した意義はあったと考えている。
- 湯本部会長 続いて、議題3「今後の取組について」、事務局から報告をお願いする。
- 事務局 議題1において報告したとおり、京都市では、平成26年3月に策定した「京都市生物多様性プラン」に基づき、リーディング事業を中心に取組を推進している。プランでは、2020（平成32）年度までに達成すべきこととして、次の3点を掲げている。
① 京都の暮らしや文化を支える生態系や生きものが守られている
② 市民や事業者等が生物多様性の恵みを理解し、行動を始めている
③ 生物多様性の恵みを生かした持続的な暮らしや経済活動が行われている
これらの目標に向け、現行プランの効果や課題について検証していく必要があると考えている。また、次期プランの策定に向けて、例えば「市民や事業者等を対象とした意見交換会の場を設ける必要があるのではないか。」等、今後必要な取組について、御意見を頂戴したい。

- 湯本部長 ②については、京の生きもの文化協働再生プロジェクト認定数や京都市生物多様性保全活動登録数、市民・事業者を対象としたアンケートを実施することで検証できるのではないかと。
- ①、③については、何をもって達成状況を評価すると良いか意見をいただきたい。
- 原口委員 京都市の生物多様性保全に関する普及啓発は他都市に比べて進んでいると思う。ただ、京都市には大学の先生や学生、市民団体等、意識の高い方が多くいる中で、そのリソースを行政側がうまく利用できていないため、そこからの知恵や行動力を取り込むことができるかと2020年までにさらに取組を進めることができるのではないかと。
- ①は生息域外保全のみではなく、実際の生息地の保全が必要となってくる。
- ③は民間の力で回るようにならないと持続可能とは言えない。
- 畠委員 以前の検討部会でも言ったが、河川工事や外来種の問題等について相談したいときに、最初の窓口がないため、どこに相談すればよいのかを示してほしい。
- 事務局 生物多様性に関わることについての窓口は環境管理課である。ただし、本市のすべての事業を当課で把握している訳ではないので、相談内容をお聞きし、担当課を紹介することになるかと思う。
- 久山委員 ①については、深泥池や桂川河川敷、東山の三山等、これまでから保全活動が行われ、自然が守られている場所については、それぞれ課題があると思うのでそれらを抽出し、モデルケースとして、課題解決がどのくらい進んでいるかを市民に示すことが出来れば説得力があるのではないかと。
- 生きもの発見報告について数だけでなく、どのような生きものが報告されているのか知りたい。
- 湯本部長 プランの中にも、京都市の奥山・里地や農耕地、市街地、河川・池沼の特徴的な場所について掲載されているので、それぞれの地点について、プラン策定時と2020年との変化を評価することはできるのではないかと。
- 原口委員 GISを活用し地図情報として、生物多様性保全活動が行われている場所や自然環境の変化について見える化をすると分かりやすく進捗状況を示すことができるのではないかと。
- GISの活用については、大学等の学生に協力を依頼すると良い。
- 菊池委員 小学生への意識付けが大切であると考えている。例えば、ツバメの巣について、田んぼの減少により土が供給できず、新しい巣をつくることができなくなり、古い巣を利用することで子どもが病気になってなかなか育たないという問題が出ている。そこで、市内の小学校に、通学路のツバメの巣を地図上にプロットしてもらい、結果を京都市で取りまとめることなど、何かシンボルになるような参加の仕組みを作ることができれば、様々なことに活用できるのではないかと。
- 事務局 ホームページ上でも生きもの発見報告を受け付けているが、幅広く報告を受けることは出来ていない。どの生きものを対象にすると良いかアドバイスをいただきたい。
- 湯本部長 京都のフリースクールではメダカを対象として約10年調査を続けている。
- 菊池委員 京都市として取りまとめる場合は、最初の実組としては特定の場所にしかない生きものは避けた方が良くと思う。また、小学生を対象とする場合、小さな生きものの種の判別することは難しいため、ツバメの巣であれば判別しやすく、重複して集計する可能性も低いと、実組のスタートとしては良いのではないかと。
- 湯本部長 最初は小さな範囲でやってみて、反応が良ければ範囲を広げていくと良いのではないかと。

原 口 委 員 「京都の社寺と生物多様性」に興味を持つ外国人もいるはずであるため、翻訳版を発行しホームページ上に掲載してはどうか。留学生に協力してもらうことで費用をかけずに行うことができるのではないかと。京都市の取組を世界に発信することで、市民にとっても活動する燃料になる。また、外国人を対象にしたエコツアーを実施し、SNS 等で発信することで、市民の参加も増えるのではないかと。また、観光は京都市の強みの一つであるため、観光と生物多様性を絡めて取り組んでいく必要がある。

菊 池 委 員 酒造メーカーなどがファンド付きの製品を販売し、その売上の一部が保津川の保全の資金になるという仕組みを作っているが、例えば企業が売り上げの何%かを京都市の生物多様性保全に使ってほしいという声があった場合、京都市に基金を受け付ける仕組みはあるのか。
行政の予算の中でやっていくのは難しいと思うが、企業や市民が個別に行うよりも、資金が足りないところに的確に資金が流れる仕組みを作っていく必要がある時期が来ているのではないかと。

事 務 局 基金の受皿については持っておらず、これまでに検討も出来ていない。
将来的に行政や企業、市民が win-win になるようなネットワークが構築できればよいと考えているが、次期プランに向けての課題であると認識している。

喜 馬 委 員 生物多様性のみをテーマに事業を行うのではなく、海外の人との交流や街コンなどと絡めながら、結果として生物多様性について学べる取組をしてもおもしろいのではないかと。

湯本部会長 予定の時間となった。以上で、本日の審議を終了する。

1 6 : 0 0 終了